

実 践 編

小学校第6学年

こんな展開はいかがですか

小学校第6学年 「病気の予防」（生活行動がかかわって起こる病気の予防）

1. 単元名 病気の予防

2. 単元の目標

- ・がんなどの病気の予防について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組むことができるようにする。 (関心・意欲・態度)
- ・がんなどの病気の予防について、課題の解決を目指して知識を活用した学習活動により、実践的に考え、判断し、それらを表すことができるようにする。 (思考・判断)
- ・がんなどの病気の予防について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解することができるようにする。 (知識・理解)

3. 単元について

ここでは、がんなどの病気の起こり方の四つの要因とその予防を理解させ、生涯にわたって健康を維持するための基礎となる知識を身に付けさせたい。また、過量な飲酒・喫煙が、がんの要因となることについても理解させ、飲酒・喫煙防止へつながる資質や能力の基礎を培いたい。さらに、地域の様々な保健活動の取組について考える場面で、がん検診についても理解できるようにしたい。

小学校6年という段階を考えると、がんに関する内容があまり専門的になりすぎないように留意する必要があると考え、以下のように内容を決め出した。（赤字ががんに関する内容）

4. 単元計画

（参考 文部科学省 「生きる力」を育む小学校保健教育の手引き）

	第1時	第2時	第3時	第4時
	病気の起こり方	病原体がもとになって起こる病気の予防	生活行動が主にかかわって起こる病気の予防	
主な学習内容・学習活動	○病気は、病原体、体の抵抗力、生活行動、環境がかかわり合って起こること	○病原体が主な要因となって起こる病気には、インフルエンザや結核、麻疹、風しんなどがあること ○その予防には、病原体が体に入るのを防ぐことや病原体に対する体の抵抗力を高めることが必要であること	○生活行動が主な要因となって起こる病気には、心臓や脳の血管が硬くなったりつまったりする病気があること ○ 偏った食事、運動不足は、がんの原因となること ○その予防には、望ましい生活習慣を身に付ける必要があること ○ がんになるリスクを減らすための工夫として、規則正しい生活とバランスのとれた食事をする、適度な運動をする等があること	○生活行動が主な要因となって起こる病気には、むし歯や歯ぐきの病気があること ○その予防には、望ましい生活習慣を身に付ける必要があること
	1. 今までに自分や家族がかかった病気や、知っている病気を調べて発表する。 2. 病気は、病原体、体の抵抗力、生活行動、環境などが関わり合って起こることを知る。	1. 病原体がもとになって起こる病気には、インフルエンザや結核、麻疹、風しんなどがあることを知る。 2. その予防には、病原体の発生源をなくすこと、病原体が体内に入るのを防ぐこと、体の抵抗力を高めておくことが必要であることを知る。	1. 生活行動が関わって起こる病気には、心臓や脳の血管が硬くなったりつまったりする病気があることを知る。 2. がんも生活行動に関わって起こる病気の一つであることを知る。 3. がんなどの予防には、健康によい生活習慣を身に付ける必要があることを知る。	1. 自分の生活の経験から、むし歯や歯ぐきの病気が起きる原因について考える。 2. その予防の仕方を知り、学習したことを基に、自分の生活に当てはめてみる。

	第5時	第6時 (本時①)	第7時	第8時 (本時②)
主な学習内容・学習活動	飲酒と健康 ○飲酒は、健康を損なう原因となること ○過量な飲酒は、がんの原因となること	喫煙と健康 ○喫煙は、健康を損なう原因となること ○喫煙は、がんの原因となること ○がんになるリスクを減らすための工夫として、たばこを吸わない等があること	薬物乱用と健康 ○薬物乱用は、健康を損なう原因となること	地域の様々な保健活動の取組 ○地域では、保健にかかわる様々な活動が行われていること ○がんに関する検診も行われていること ○がんとは、体の中で、異常な細胞が際限なく増えてしまう病気であること ○がんには様々な種類があり、病気が進むと、元気な生活ができなくなったり、命を失ったりすることもあること
	1. 飲酒による健康への影響について調べる。 2. 飲みすぎるとがんの原因にもなることを知る。 3. 低年齢からの飲酒は、害が特に大きいこと、法律で禁止されていることを知る。 4. 好奇心や周りの人からの誘いなどがきっかけで飲酒を開始する場合があることを知る。	1. たばこの煙の影響について実験で確かめる。 2. たばこががんの原因になることを知る。 3. がんを予防するためにはたばこを吸わないことが大切であることを知る。 4. 受動喫煙により周囲の人々の健康にも影響を及ぼすこと、低年齢からの喫煙は害が特に大きいこと、法律で禁止されていることを知る。 5. 好奇心や周りの人からの誘いなどがきっかけで喫煙を開始する場合があることを知る。	1. 薬物乱用による健康への影響について考える。 2. 1回の乱用でも死に至ること、乱用を続けると止められなくなることを、その結果、心身の健康に深刻な影響を及ぼすことを知る。 3. 薬物の乱用は、法律で厳しく規制されていることを知る。	1. 地域には、人々の病気を予防するために保健福祉事務所や保健センターがあることを知る。 2. そこでは、健康な生活習慣に関わる情報提供や予防接種などの活動が行われていることを知る。 3. がんに関する検診も行われていることを知る。 4. がん検診の必要性について考える。 5. がんの原因や種類について知る。

5. 展開例① (6/8時間)

(1) 喫煙と健康

(2) 本時の目標

○喫煙による健康への影響やがんとの関係について資料で調べたことを基に課題や解決の方法を見つけて説明することができるようにする。 (思考・判断)

○喫煙は、がんなどの原因となり、がんになるリスクを減らすための工夫として、たばこを吸わない等があることについて理解したことを言ったり、書いたりできるようにする。

(知識・理解)

(3) 展開

	主な学習活動・学習内容	○指導上の留意点	◆評価	資料等
導入 10分	1. 資料1から分かることを発表する。 〈予想される反応〉 ・たばこはがんで死亡する大きな原因の一つだ。 ・たばこを吸うと肺が黒くなっちゃう。	○グラフはアメリカ人の資料であり、日本人の場合は、アメリカ人より肥満の影響が小さく、飲酒の影響が大きいことを説明する。*		資料1 アメリカ人のがん死亡の原因
	2. 学習のねらいを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">たばこが健康に及ぼす影響について調べてみよう。</div>	○肺の画像を提示し、たばこが及ぼす影響について説明する。		資料2 肺の画像

展開
30分

3. たばこの煙の影響について実験する。

〈予想される反応〉

- ・煙がたくさん出てきた。
- ・臭い。
- ・たった1本のたばこでも、ティッシュが茶色になることが分かった。
- ・これが肺に入ったら大変だと思った。
- ・私は、たばこを絶対吸わないようにしようと思った。
- ・うちのお父さん、たばこ吸うから心配だな。

○喫煙は、健康を損なう原因となること。

4. 資料3から分かることを発表する。

〈予想される反応〉

- ・たばこを吸う人は、吸わない人の2倍もがんになりやすいんだ。
- ・喉頭がんや肺がん、食道がんになる危険性が高い。
- ・煙の通り道じゃない場所でもがんになりやすくなるのはどうしてかな。

○喫煙は、がんなどの原因となること。

5. 資料4・5を参考にしてがんのリスクを減らすための工夫についてグループで考える。

〈予想される反応〉

- ・資料4を見るとやっぱり吸わない方がリスクが低いね。
- ・35本以上吸うとがんになるリスクが8.4倍にもなるんだね。
- ・資料5を見ると、早くに吸い始めると影響が大きいことが分かる。

【実験方法】

- ①タバコをビニールホースの先に差し込み、タバコに火をつけ、ポンプをつけて人形に煙を吸わせる。
- ②タバコが灰になったら、ビニール袋をはずし、ティッシュペーパーを見る。



資料提供：愛媛県警察本部

- 実験は教師が行い、児童がたばこの煙を吸わないように喚起を十分行う。
- 実験で分かったことを学習カードに記録するように指示する。

○たばこががんの原因となるのは、長年にわたってたばこの煙を吸い続けた成人に対するメッセージであるため、小児がん患児が喫煙者であったような誤解を生まないように配慮する。*

○たばこの煙には、約4000種類以上の化学物質が含まれており、それらの中には遺伝子のミスを起こしてがんができる原因となる物質（発がん性物質）が、約60種類も含まれることを説明する。*

○肺から血液に吸収された発がん性物質が全身に回ることを説明する。*

○資料に基づき意見を言うよう助言する。

○喫煙は、様々ながんの原因の中で、予防可能な最大の原因であることを説明する。*

○がんの予防のためにはたばこを吸わないことが最も重要であることを強調して説明する。

○喫煙は、たばこを吸う本人だけでなく、たばこを吸わないまわりの人にも肺がんなどの健康被害を引き起こすことを説明する。*

○未成年の喫煙は法律で禁止されていることを説明する。

実験装置

学習カード

資料3

たばこをすうとがんになりやすい

資料4

喫煙本数別にみた肺がん死亡についての相対危険度（日本）

資料5

喫煙開始年齢別肺がん標準化死亡率（男）

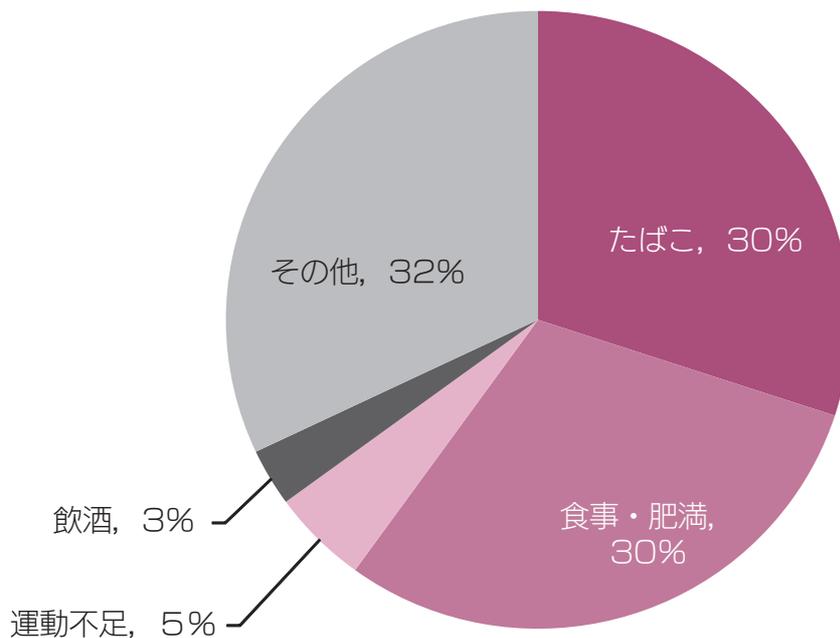
* 参考「がんのことをもっと知ろう（指導書）」→ P99

	<ul style="list-style-type: none"> 15歳から19歳に吸い始めると吸わない人の約6倍のリスクだね。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>○がんになるリスクを減らすための工夫として、たばこを吸わない等があること。</p> </div>	<p>○好奇心や周りの人からの誘いなどがきっかけで喫煙を開始する場合があることを説明する。</p> <p>◆【思考・判断】</p> <p>喫煙による健康への影響やがんとの関係について資料で調べたことを基に課題や解決の方法を見つけて説明している。(観察)</p>	
<p>まとめ 5分</p>	<p>6. 本時のまとめをする。</p> <p>〈予想される反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> たばこを吸わないようにお父さんに伝えたい。 	<p>○カードに記入したことを発表させる。</p> <p>◆【知識・理解】</p> <p>喫煙は、がんなどの原因となり、がんになるリスクを減らすための工夫として、たばこを吸わない等があることについて理解したことを言ったり、書いたりしている。(観察・ワークシート)</p>	<p>学習カード</p>

(4) 資料等

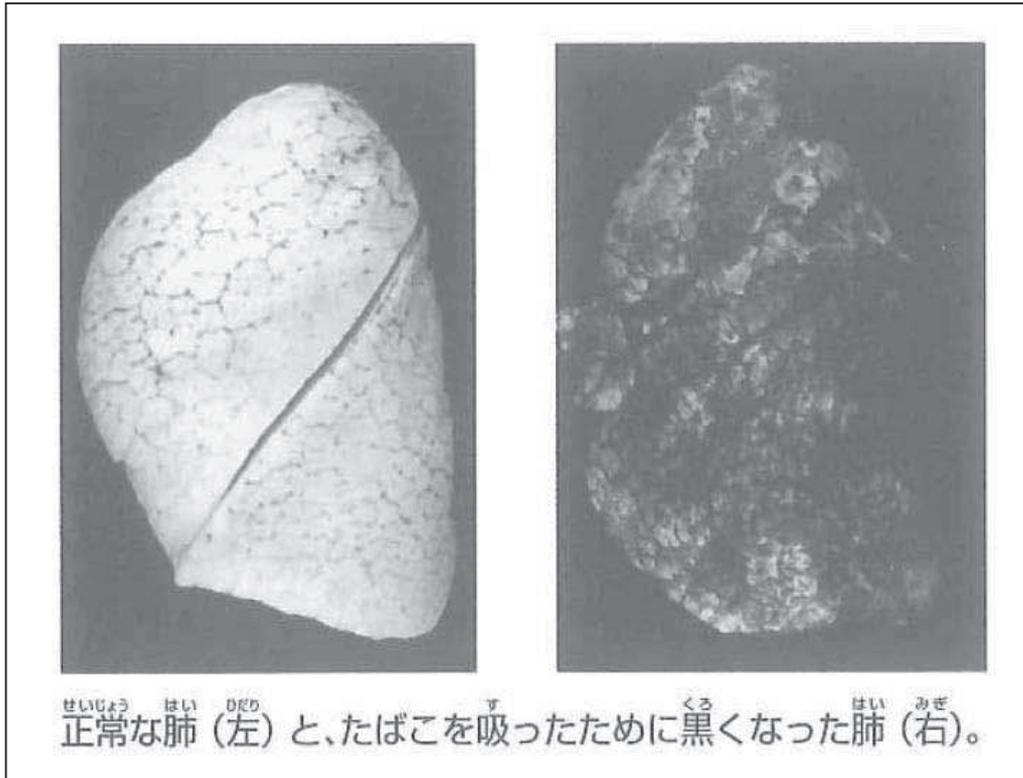
資料1：

アメリカ人のがん死亡の原因 ハーバード大学がん予防センター推計 (1996年)

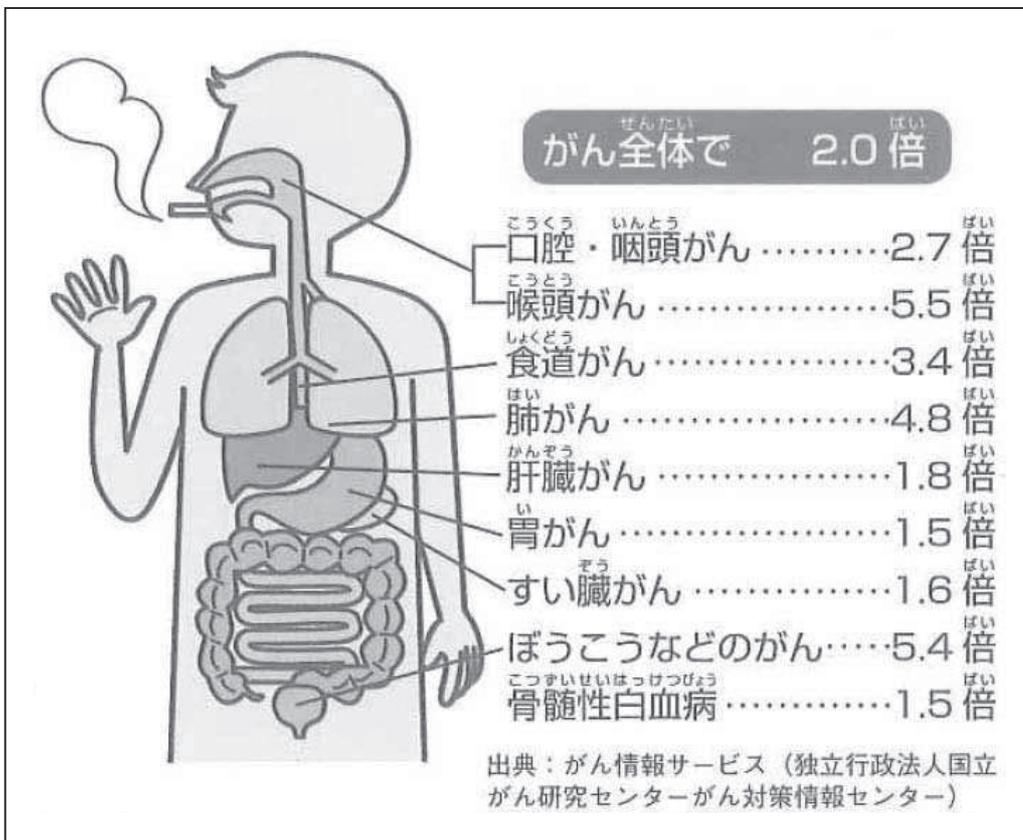


国立がん研究センターがん対策情報センター がん情報サービス
 人のがんにかかわる要因 表1「米国人のがんの原因」より作成
http://ganjoho.jp/public/pre_scr/cause/factor.html#hyo01 (参照 2015/2/25)

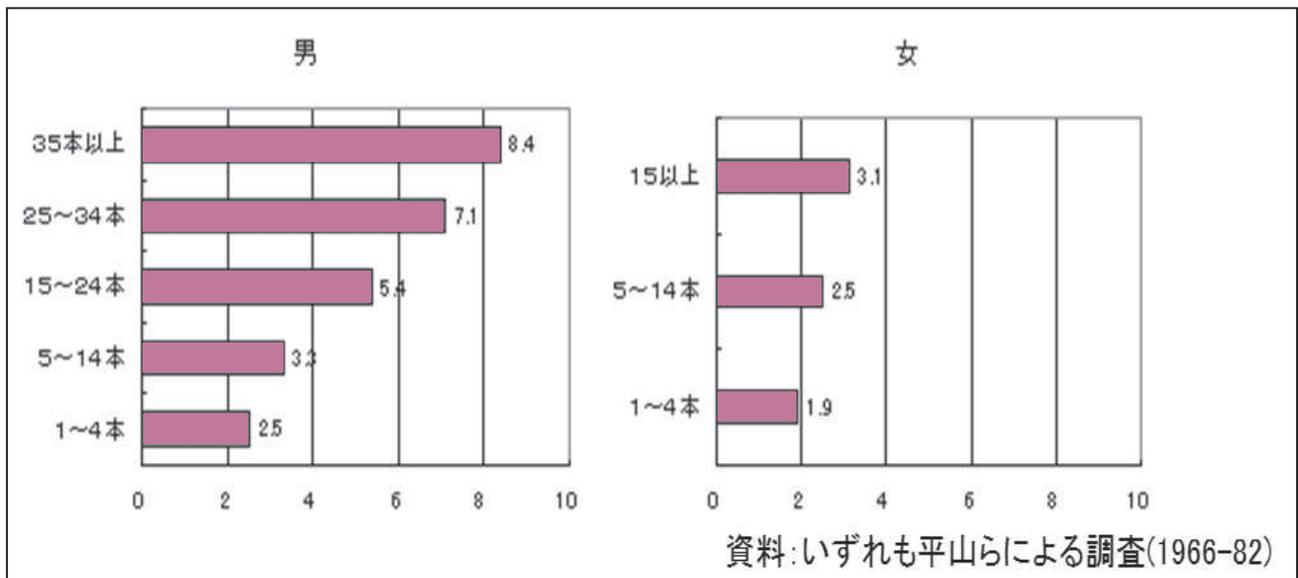
資料2：肺の画像 出典「がんのひみつ」学研（2013年）



資料3：たばこをすうとがんになりやすい 出典「がんのひみつ」学研（2013年）

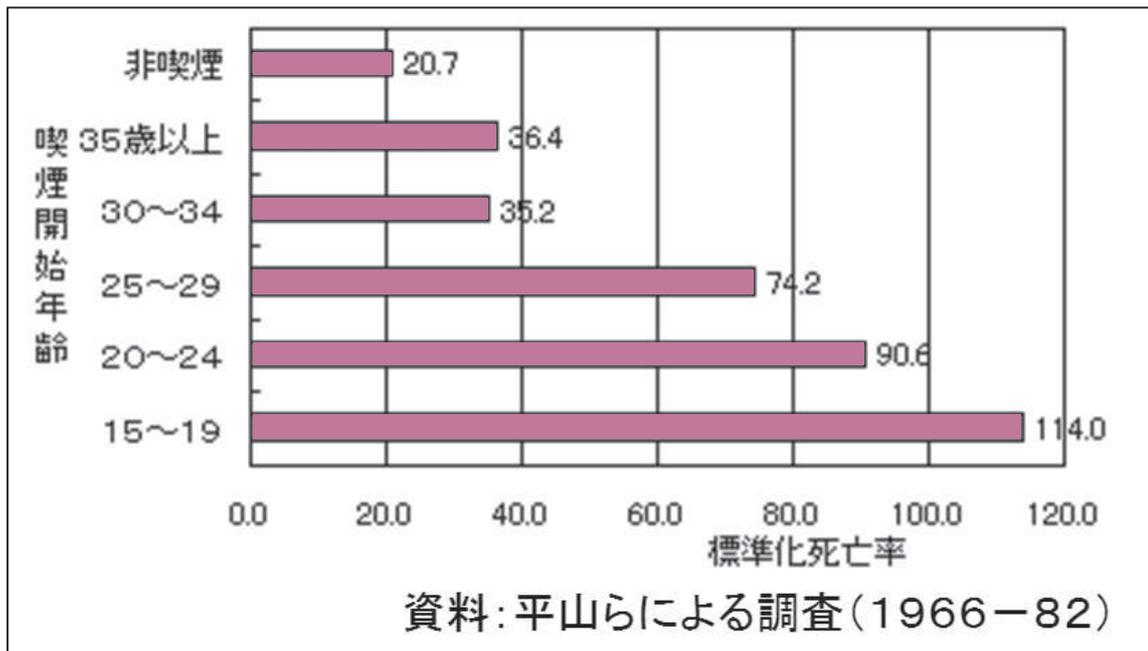


資料4：喫煙本数別にみた肺がん死亡についての相対危険度（日本）
（非喫煙者を1とした時の喫煙者の危険度）



資料5：喫煙開始年齢別肺がん標準化死亡率（男）

（ここでいう標準化死亡率とは、年齢構成の違いを補正した死亡率で、人口10万人に対する死亡率を示したもの）



資料4・5 厚生労働省「喫煙の健康影響について」（参照 2015/2/25）
<http://www.mhlw.go.jp/topics/tobacco/kaigi/060810/07.html>

学習カード

保健 学習カード 「病気の予防」（たばこの害）

1 実験で分かったことを書きましょう。

2 資料3から分かることを書きましょう。

3 資料4・5を参考にして、がんのリスクを減らすための工夫についてグループで考えましょう。

工夫

4 今日の授業で分かったことを書きましょう。

6. 展開例②（8／8時間）

(1) 地域の様々な保健活動の取組

(2) 本時の目標

- ・がん検診などの地域での保健活動について自分たちの生活と関係づけて説明することができるようにする。(思考・判断)
- ・地域では、がん検診など保健に関わる様々な活動が行われていることについて理解したことを言ったり書いたりできるようにする。(知識・理解)

(3) 展開

	主な学習活動・学習内容	○指導上の留意点	◆評価	資料等
導入 10分	<p>1. 学校で行われている保健活動について知り、本時のねらいを確認する。</p> <p>〈予想される反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康診断をやっている。 ・「保健だより」の発行。 ・保健集会をやっている。 ・水道水の検査もしている。 	<p>○学校の保健室では、病気を予防し、健康を守るために、どのようなことをしているか問いかける。</p> <p>○保健室や保健委員会の児童が行っている活動を実際の写真などを見せながら、具体的に想起させる。</p>		<p>資料</p> <p>保健活動の写真</p>
展開 30分	<p>2. 学習のねらいを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>病気の予防のために地域で行われている様々な保健活動について考えよう。</p> </div> <p>3. 地域の保健活動の取組について調べてきたことを発表する。</p> <p>〈予想される反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小さい時、歯の検査に行った。 ・予防注射に行った。 ・お母さんは、大人の検診もしているって言った。 <p>4. 地域の保健活動について知る。</p> <p>〈予想される反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康について色々な相談を受けているんだ。 ・健康づくりに関するお知らせや講習会もしている。 ・がんの検診もしている。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>○地域では、保健にかかわる様々な活動が行われていること。</p> <p>○がんに関する検診も行われていること。</p> </div>	<p>○グループごとに調べてきたことを発表し合う際、小さい頃のことを思い出しながらまとめるように助言する。</p> <p>○市町村によって保健センターの活動に差があるので、事前に調べておく必要がある。その際、保健センターに写真等の資料提供をお願いしておく。</p> <p>○資料の写真を掲示しながら補足説明をする。</p> <p>○保健センターでは、地域の人々の健康を守るために、様々な活動をしていることを説明する。</p> <p>○市町村のホームページや広報に、がん検診をはじめとする地域の保健活動情報が掲載されているので参考にしたい。</p> <p>○乳がんについて触れる際は、思春期である男子児童への配慮が必要になる場合がある。*</p>		<p>学習カード</p> <p>事前に保健センターについて調べてくる</p> <p>資料</p> <p>保健センターの写真(外観)</p> <p>資料</p> <p>保健センターにおける保健活動の写真</p>

展開
30分

5. がん検診がなぜ必要なのか考える。

〈予想される反応〉

- ・ 気をつけようと思っても生活習慣が乱れてしまう人がいるからかな。
- ・ 気をつけている人は検診を受けなくてもいいのかな。
- ・ うちのお父さんはたばこを吸わないけど検診に行っているよ。

6. がんの原因について知る。

- ・ がんの原因は遺伝子のコピーミスなんだ。
- ・ がん細胞は時間をかけて増えていくんだ。

○がんとは、体の中で、異常な細胞が際限なく増えてしまう病気であること。

7. 日本人の代表的な死因について知る。

〈予想される反応〉

- ・ がんが第1位だね。
- ・ 3人に1人ががんで死んでいる。
- ・ 2人に1人ががんになる可能性があるんだ。
- ・ 自分もがんになる可能性があるな。

8. がんの種類や早期発見の大切さについて知る。

〈予想される反応〉

- ・ 肺がんが一位なんだね。
- ・ 早く発見すれば治るんだ。
- ・ でも発見が遅れると命を失うこともあるから気をつけなといけな。
- ・ だから保健センターではがん検診を行っているんだね。

○がんには様々な種類があり、病気が進むと、元気な生活ができなくなったり、命を失ったりすることもあること。

○これまでの学習を振り返り、生活習慣に気をつけていれば、がんなどの病気にはならないので、がん検診は必要ないのではないかと問いかける。

◆【思考・判断】

がん検診などの地域での保健活動について自分たちの生活と関係づけて説明している。（発言）

○資料をもとにがんの発生の仕組みについて説明する。

○私たちの細胞は日々入れかわっている。普通は傷ができて自分たちの体が直したりするのが、歳をとって何回も細胞が入れかわったり、傷ができやすい生活（喫煙や多量の飲酒、運動不足など）をすると、直すのが間に合わなくなり、異常な細胞ができることを説明する。*

○資料をもとに日本人の死亡原因について説明する。

○小児がんは子どもの死亡原因の第1位ではないことを説明する。

○2人に1人ががんになる可能性があるということをクラスの人数や自分の家族人数で具体的に考えさせる。

○日本人なら、だれでもがんになる可能性があることに気づかせる。

○資料をもとに主ながんの種類と死亡数の部位別順位について説明する。

○がんは少しずつ大きくなるので、早期に発見し治療すれば多くが治る病気であるので怖がる必要はないことを説明する。

○ただし発見が遅れると病気が進み、元気な生活ができなくなったり、命を失ったりすることもあることを説明する。

○成人のがんと同様に小児がんについても必ずしも死に直結したものではない（7～8割が治るとされている）ことを説明する。*

資料1

がんができるしくみ

資料2

死亡原因の構成割合（2013年）

資料3

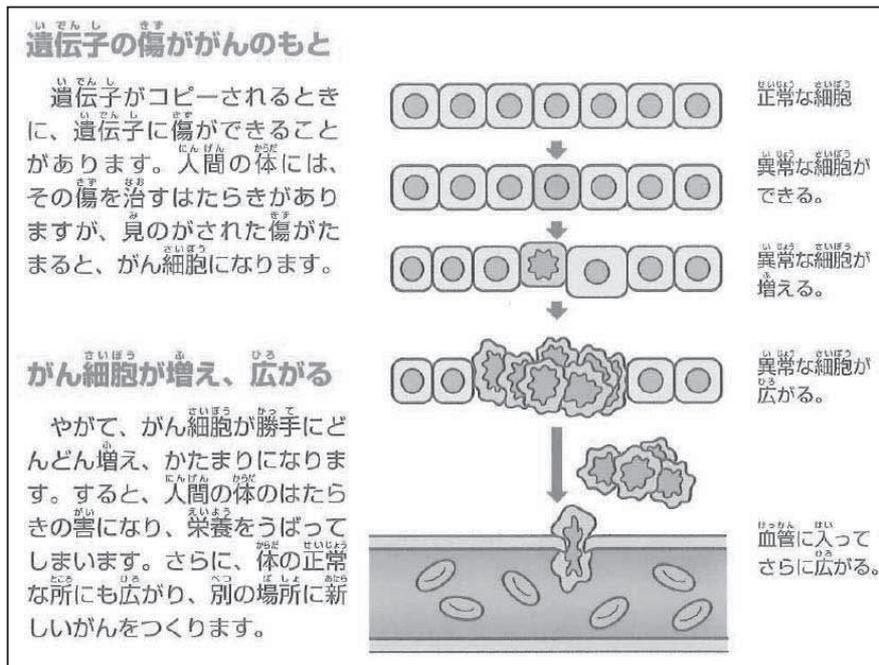
いちばん多いのは肺がん

* 参考「がんのことをもっと知ろう（指導書）」→ P99

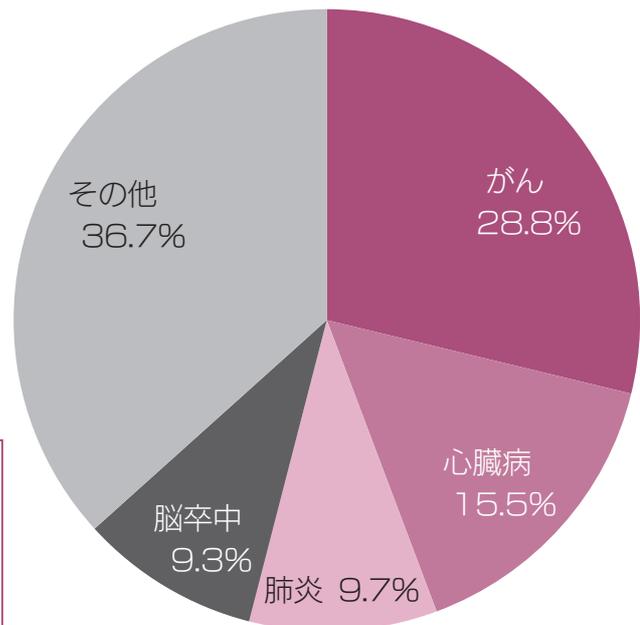
<p>まとめ</p> <p>5分</p>	<p>9. 本時のまとめをする。</p> <p>〈予想される反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 家族にもがん検診を受けるように伝えたいな。 	<p>○カードに記入したことを発表させる。</p> <p>◆【知識・理解】</p> <p>地域では、がん検診など保健に関わる様々な活動が行われていることについて理解したことを言ったり書いたりしている。（観察・学習カード）</p>	<p>学習カード</p>
----------------------	---	--	--------------

(4) 資料等

資料1：がんができるしくみ 出典「がんのひみつ」学研（2013年）

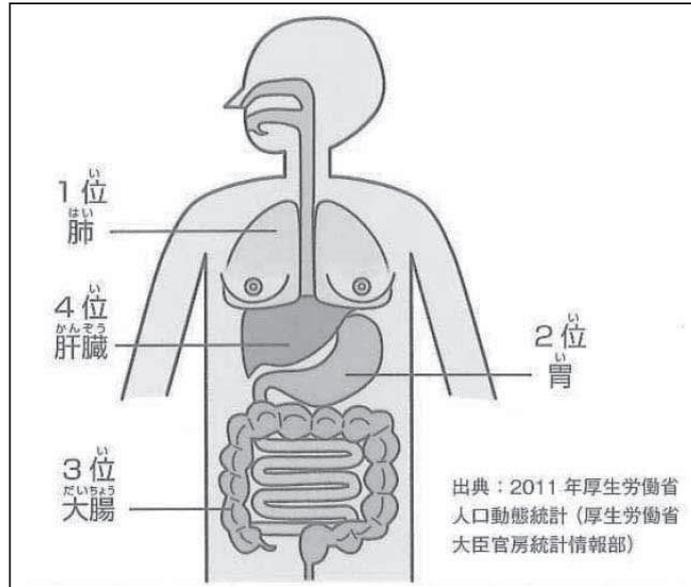


資料2：死亡原因の構成割合（2013年）



厚生労働省：人口動態統計（2013）
表6 性別にみた死因順位（第10位まで）
別死亡数・死亡率（人口10万対）・構成割合より作成（参照：2015/2/25）
<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/kakutei13/>

資料3：いちばん多いのは肺がん 出典「がんのひみつ」学研（2013年）



学習カード

保健 学習カード 「病気の予防」（地域の様々な保健活動の取組）

1 保健センターの取組について知っていることを書きましょう。（事前課題）

1	
2	
3	

2 今日の授業で分かったことを書きましょう。

(1) 保健センターの取組について

(2) がんについて

1. 主題名 電池が切れるまで 3- (1)

生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。

2. ねらい

由貴奈さんの詩やお母さんのことばをまとめた資料を読み、詩「命」に込められた思いやお母さんの由貴奈さんへの深い愛情を感じることで、一人一人にとってかけがえのない命の大切さを感じ、前向きに生活していこうとする気持ちを抱くことができる。

3. 主題設定の理由

ねらう道徳的価値に即した子どもの実態

日常生活では、交通事故・自然災害など生死に関する実感のない情報はたくさん得られているように思うが、実際は人の死に直面した経験をもつ子どもは少ない。

教師の願い

お母さんのことばや由貴奈さんの詩からつらい治療に負けず強く精一杯生きようとした由貴奈さんの生き方や考え方をじっくり見つめなおすことを通して、一人一人に与えられた命はかけがえのないものであることを改めて考え、前向きに生きることの大切さを感じてほしい。

資料の価値

苦しい治療の中で、命の大切さを見つめている由貴奈さんの詩や、娘を語るお母さんの言葉は、命を実感する経験の少ない子どもたちの心をゆり動かし、命を深くとらえ直していくためのよい資料である。また、由貴奈さんの前向きな生き方や周りの人を思いやる優しさにふれることで、自分自身の生き方やあり方を問うていくことができる。

教材化（一時間をどう構想するか）

「命」に込められた思いは、由貴奈さんのおかれた生活から生み出されてきたものであることを考えさせたい。そしてお母さんのことばから、詩に込められた由貴奈さんの思いをとらえ直し、最後にもう一度「命」の詩を読み返すことで、大切な命と向き合っていきたい。

4. 留意点

事前に体育科保健領域でがんに対する正しい知識を伝えた上で、この題材を扱う。

日本では年間に2,000人から2,500人の子どもが新たにがんと診断されている。つまり、子どもの人口約10,000人に対し1人であり、稀な病気である。しかし、1～19歳の子どもに最も多い不慮の事故や、先天奇形、変形及び染色体異常（1～4歳）や自殺（15～19歳）に次いで、悪性新生物は子どもの主要な死亡原因であり、病死の中では最も多いことが報告されている。（厚生労働省 平成23年人口動態調査）。大人のがんとは異なり、生活習慣にがんの発生要因があると考えられるものは少なく、予防ができない、誰がなってもおかしくない病気である。一方、小児がんに対する診断、治療は著しく進歩しており、高い確率で治癒するものと考えられている。小児がんは、ときとして致命的な病気であるが、適切な治療により克服の可能性が高い病気である（治癒確率は7～8割であるとされている）。

資料の中で、薬の副作用による吐き気や髪の毛が抜けることが触れられているが、現在は薬の進歩により、そのような副作用も少なくなっていることも押さえない。

子どもたちが、がんに対し、必要以上の恐怖心を抱かないよう留意する必要がある。

*参考「がんのことをもっと知ろう（指導書）」→P99

5. 展開例

	主な学習活動・学習内容	○指導上の留意点 ◆評価
導入 5分	1. 「命」の詩を読み、感想を発表する。 〈予想される反応〉 ・命を大切に考えている。 ・命を無駄にはしていない。 ・命ある限り精一杯生きようとしている人だ。	○「命」の詩を読み、感想を聞く。 ○「命」の詩を読んだことがある子どもやそうでない子もいるだろうが、ここでは特に説明を加えず、感じたままを発表することを大事にしたい。
展開 30分	2. 学習のねらいを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">由貴奈さんはどんな気持ちでつらい治療を乗り越えたのでしょうか。</div>	
	3. 由貴奈さんが治療を乗り越えることができた理由を考える。 〈予想される反応〉 ・友達や家族に支えられながら乗り越えた。 ・病気に負けないんだ、治したいんだという強い気持ちがあった。 ・生きようとする強い気持ちがあった。 ・でも、痛くてつらくて、へこたれるときもあったんじゃないのかな。	○人知れず泣いている由貴奈さんの姿が友達の詩の中に表現されている。しかし、それを乗り越えるだけの友達・家族の支え、本人の明るさ、優しさ、生きることへの強い思い等があったことをおさえない。 ○友達や家族の支えの大切さに目を向けさせたい ○生きることに対する由貴奈さんの気持ちの強さに意識を向けさせたい。 ○「電池が切れるまで」の中には、由貴奈さんの絵等も紹介されている。それらも活用しながら、由貴奈さんの姿をとらえたい。
	4. 麻美さんの死を知った時の由貴奈さんの気持ちを考える。 〈予想される反応〉 ・一緒に頑張ってきた友達だから、最後のお別れをしたかった。 ・苦しい治療を頑張り通したことに声を掛けてあげたかった。 ・本当に大切にしていたかけがえのない麻美さんの命だからこそ、自分の目で見届けたかった。	○最近身近な人を亡くした児童がいる場合、その時のことを思い出して悲しい気持ちになることが考えられる。事前に様子を観察するなど、十分配慮したい。
まとめ 5分	5. もう一度由貴奈さんの詩を読み返し、命について考えたことを書く。 〈予想される反応〉 ・詩を読んでいると、心が落ち着いていく感じがした。電池が切れるまで精一杯生きようとする気持ちが分かった。私も命を大切に精一杯生きたい。 ・みんながお互いに支え合ってる命。自分や友達の命をもっと大切に考えないといけないと思った。	○現在、小児がんに対する診断、治療は著しく進歩しており、高い確率で治ると考えられていること。小児がんは、時として致命的な病気であるが、適切な治療により克服の可能性が高い病気であることを説明する。 ○しかし、がんは時として大切な命を奪う病気であることも伝えていく。 ◆かけがえのない命の大切さを感じ、前向きに生活していこうとする気持ちを抱くことができたか。(学習カード・発言)
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">もう一度由貴奈さんの詩を読み返し、命について考えたことを書きましょう。</div>

(参考 信濃教育会編 道徳資料集 わたしたちの道6 教師用指導書)

電池が切れるまで

わたしのむすめ、由貴奈は、小学校入学をひかえた五才のとき、小児ガン的一种である「神経芽細胞腫」という難病にかかりました。そのとき、由貴奈には三才の妹とまだ七か月のふたごの妹がいたのです。このころのわが家はとってもにぎやかでいそがしくて、でも幸せいっぱいでした。だからだんだん由貴奈にしのびよる病魔の存在に気がつかなかったのかもしれませんが。時々、具合が悪くなったり足を痛がることがあったのですが、風邪や成長痛ですませてしまっていたのです。しかし、お正月が明けると、び熱のほかに顔色も悪くなり、足の痛みもひどくなってきました。松本の信大病院でしん察を受けると、「神経芽細胞腫」という病名であることを告げられました。

病室へ行くと「つらいのは自分だけではない、みんなでいっしょにがんばるんだ。」と病室の五人の仲間が温かくむかえてくれました。治りようはとても大変なものでした。肩から管を入れぬいつける、薬の副作用による吐き気、食欲減退、かみの毛が抜けるなど、次々といろいろなことがおそってきましたが、由貴奈はみんな同じだからとがんばりとおすことができましたのです。

由貴奈のとなりのベッドには麻美ちゃんという女の子がいました。麻美ちゃんは、一人っ子だったので、由貴奈をお姉ちゃんのようにしてっていました。食べる時も遊ぶ時もおふろにまでいっしょに入ることもありました。でも、入院して四か月が過ぎると麻美ちゃんは個室へ移ってしまいました。その個室は家族以外入れませんでした。遊び相手をたのまれた由貴奈だけが入ることができました。

ある日、麻美ちゃんの急変を聞きました。わたしは、こんな小さな命をうばう病魔を心からにくいと思いました。由貴奈にはなかなか言えませんでした。お昼に出たおかゆをいやがって食べないので、つい「あーちゃんはね・・・」と言いかけてしまいました。「あーちゃん？」と聞かれ、どきっとしましたがいずれ分かってしまうことと思い「天国へいっちゃったんだよ。」と言いました。「由貴奈も見送ってやりたかった。」と言われ、しばらく二人で泣きました。「こうやって生きていられることはとってもありがたいことなんだよ、あーちゃん分までがんばって食べようね。」と話しました。由貴奈のように難病にかかって入院している子は、こういう悲しい経験をせずには通れなかったのです。

テレビでは、自殺やいじめなどのニュースがひんぱんに流れていました。由貴奈は「生きていたくても生きられない友達がいるのに自殺するなんて。」とそんなニュースにはらを立てていました。

「命」という詩を書いたのはそんなとき、亡くなる四か月前のことでした。左目がはれ、

全身の痛みがひどく車のしん動さえつらくなり、高原病院へ入院しました。

ある日、身のまわりのものを準備し、病院へもどると意識がなくなっていました。ここまでがんばった由貴奈を楽にしてあげたいと思いましたが、なみだが止まりませんでした。五年半の闘病生活で初めてかくごを決めたときでした。そうやってできたのも、由貴奈の明るい性格に救われながら、ずっと希望を持ち続けることができたからかもしれません。意識がなくなって三日ほどたったとき急に、「由貴奈が」、と一言声を出したのです。わたしたちはおどろき、二人で大喜びをしました。

由貴奈に一度意識がもどったのは、最後までみんなに心配をかけさせまいとしてなのか、みんなにちゃんとお別れを言うためなのか、それは分かりません。ただ、最後までせいっぱい生きたのだと、わたしも主人も思いました。わたしも主人もこの詩を残してくれたからそう思えるのです。この詩の「だから私は命が疲れたと言うまでせいっぱい生きよう」ということばに救われたのです。

由貴奈のこの「命」という詩は、十一年という短いけれどぎょうしゅくされた人生の中で得た勉強の成果なのではないかと思えます。これが病気とともに明るくそしてせいっぱい生きたむすめ、由貴奈です。

由貴奈のことを思い出すと、本当に大勢の人のお世話になったことが思い出されます。人って一人で生きているんじゃないんだと改めて感じています。

命

諏訪郡富士見小 四年
宮越由貴奈

命はとても大切だ
人間が生きるための電池みたいだ
でも電池はいつかは切れる
命もいつかはなくなる
電池はすぐにとりかえられるけど
命はそう簡単にはとりかえられない
何年も何年も
月日がたつてやつと
神様から与えられるものだ
命がないと人間は生きられない
でも
「命なんかいらない。」
と言って
命をむだにする人もいる
まだたくさん命がつかえるのに
そんな人を見ると悲しくなる
命は休むことなく働いているのに
だから 私は命が疲れたと言うまで
せいっぱい生きよう

ゆきなちゃん

小学五年

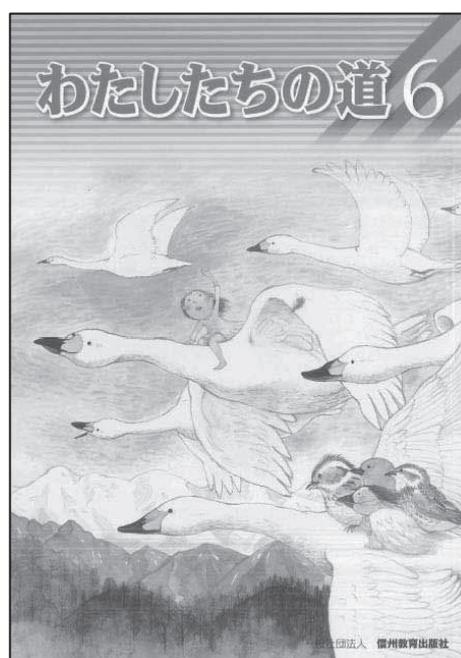
田村由香

ゆきなちゃんは
合計二年間も病院にいる
治療で苦しいときもある
それなのに
人が泣いているときは
自分のことなんか忘れて
すぐなぐさめてくれる
でも たまあに
夜 静かに泣いていたときもあつた
いつもなぐさめていたゆきなちゃんが泣くと
こっちがどうしていいか
わからなくなる
ゆきなちゃんの泣いている姿を
ただ じっと見ているだけで
ごめんね なぐさめられなくて
ゆきなちゃん ごめんね

これは、信濃教育会で編集している小学校6学年用道徳資料集「わたしたちの道6」に紹介されている資料です。原作はすずらの会が編集した「電池が切れるまで」です。



電池が切れるまで
子ども病院からのメッセージ
2002年11月 第1刷発行
編者 すずらの会
発行所 角川文庫



わたしたちの道6
改訂新版（第五版）
編集者 公益社団法人 信濃教育会
発行所 一般社団法人 信州教育出版社

1. 題材名 小学校第6学年「がんには負けない」（内容（2）－ア）

2. 題材の目標

- ・小児がんとは、どのような病気か、また、治療方法の進歩により、「小児がん」と診断された子どもたちの6割が病気に打ち勝って生存できる時代になったことや、院内学級について理解できるようにする。（知識・理解）
- ・希望や目標をもった生活に向けて、自分の行動を自己選択・自己決定できるようにする。（思考・判断・実践）

3. 題材について

○題材設定の理由

本題材は、希望や目標をもって生きる態度の形成に関わる内容である。小児がんについての知識が少ない子どもたちが、小児がんで亡くなった子を持つ保護者の方から直接話を聞くことで、小児がんや院内学級についての理解を深めると共に、自分の命を精一杯生きる患児と自分の生き方を関連づけて考え、これからの生活に向けて自分の行動を自己選択・自己決定できることが大切であると考え、本題材を設定した。

○本題材の指導

児童たちは、体育科（保健領域）「病気の予防」の単元で、がんについて学習している。また、道徳の資料「電池が切れるまで」で小児がんで亡くなった宮越由貴奈さんについて学習している。本題材では、小児がんで亡くなった子を持つ保護者の方から、小児がんや院内学級の様子と共に希望や目標をもって生きることの大切さを伝えていただくよう、事前に打ち合わせをしておく。また、これからの生活に向けて自分の行動を自己選択・自己決定するための学習カードを用意し、実践に結び付けることができたか事後評価をする。

4. 指導計画

	日時	活動内容
事前	○月○日	○道徳で「電池が切れるまで」の学習をする。
本時	○月○日 第○校時	○がん患者の保護者の方の話を聞き、小児がんについて理解を深めると共に、これからの生活に向けて自分の行動を自己決定する。
事後	一週間後（朝学活）	○一週間の自己の様子を振り返る。

5. 本時の展開

目指す児童の姿

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
自己の生活の充実と向上にかかわる問題に関心をもち、自主的に日常生活や学習に取り組もうとしている。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、日常生活や学習の課題について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくることの大切さ、そのための健全な生活や自主的な学習の仕方などについて理解している。

	主な学習活動	○指導の様子 ◆評価	資料等
導入 5分	1. 本時のめあてを確認する。 〈予想される反応〉 ・今日は小児がんで娘さんを亡くしたお母さんから、体験談を聞くんだな。	○道徳で学習した「電池が切れるまで」のあらすじを振り返る。 ○本時のめあてを確認する。	学習カード
	めあて：かけがえのない命の大切さについて考えよう。		
展開 30分	2. 小児がんとその治療について理解する。 〈予想される反応〉 ・小児がんは原因が分からないから予防も難しいんだ。 ・抗がん剤などの治療方法があるんだな。 3. 院内学級の様子について理解する。 〈予想される反応〉 ・院内学級は、僕たちの学校と同じようにクリスマス会などの行事があるんだな。 ・病気とたたかいながら勉強も頑張っているんだな。 ・色々な病気の子がいるんだな。 4. 最期まであきらめず生きた由貴奈さんの生き方に学ぶ。 〈予想される反応〉 ・由貴奈さんは11年しか生きられなかったけど、自分の命を十分精一杯生きたのだな。 ・病気になったことによって自分の命を見つめ、一日一日を大事に生活することができたんだね。 ・自分はただなんとなく一日を過ごしている。これじゃいけないな。	講師自己紹介  DVD視聴の後小児がんについて説明  娘の闘病生活について説明 	DVD 電池が切れるまで すずらの会編 電池が切れるまで
		◆【知識・理解】 小児がんや院内学級について理解したことを言ったり書いたりしている。(学習カード・発言)	
まとめ 10分	5. 今日のお話を聞いて今後の生き方について目標を決める。 【自己決定】 〈予想される反応〉 ・自分も一日一日を大切に生きたい。	○決めたことを発表させる。 ○一人一人の自己決定を認め、称賛して今後への実践意欲を高める。 ◆【思考・判断・実践】 希望や目標をもった生活に向けて、自分の行動を自己選択・自己決定している。(学習カード・発言)	学習カード

6. 資料他

由貴奈，お父さんお母さんを選んで生まれてきてくれてありがとう。

人は皆それぞれ使命や目的をもって生まれてくるんだって。特に由貴奈のように幼くして亡くなる子は，両親の成長を早めるために短い人生を承知で生まれてくるのだということを知りました。

我が子の大変な病気と闘う姿を見せられ，そして亡くなってしまふ。これほどの悲しみ苦しみはないと思いました。でも由貴奈はお母さんに，いえ多くの人たちにいろいろな素晴らしいことを残してくれました。

やっとこんなかっこいいことを言えるようになったけど，由貴奈を失ってから後悔ばかりしていました。なぜなら先生は治療方法を親に最終選択させていたのです。あの時本当にあれで良かったのかから始まり由貴奈にとっての態度はあれで良かったのか，病院にいるときもっと一緒にいてあげれば良かったのではないのかと切りがないのです。

でもね，考えたら人の人生と比べたら長さは短かったけど普通の一生を濃縮したのかなって思えるんです。あれだけ多くの人と知り合って多くのことを経験し，命の尊さだってとっても身近に感じられていただろうし，それまでの勉強の成果みたいにあの「命」という詩を作っちゃおうし。本当によくやったね，よく頑張ったね，由貴奈，色々ありがとう。最後に，病気から守ってあげられなくて本当にごめん。

7. 授業後の感想

- 由貴奈さんは，命がつかれたと言うまでせいっぱい生きて，命をむだにしなかったんだなあと思いました。命はとても大切だと，改めて思いました。病気になってもがんばって明るく生きた由貴奈さんは，すごいなあと思いました。
- 私は，学校や保育園に行くのが当たり前だと思っていました。でも病院ですずっとねたきりの人や重い病気をもっていて学校に行けない人がいることを初めて知りました。
- こんな病気でたくさん命がなくなるなら，病気が全部なくなればいいと強く思いました。大勢の方が悲しんでいるので，由貴奈さんのお母さんも，すごく悲しかったんだなあと思いました。
- 由貴奈さんのように病気で苦しんでいる人も生きようとしているのに，命をむだにする人はとてもいけないと思った。私は，由貴奈さんのように命がつかれたと言うまでせいっぱい生きたい。命を大事にしたいと思った。どんなことがあっても命をむだにしてはだめだ。死にたいくらい苦しくつらいことを乗り越えればこそ，命を大切に立派な人になれると思う。由貴奈さんは，とてもえらい人だ。私も由貴奈さんを見習って生きたいと思う。